

# 第14回 けん玉道関西グランプリ2016 大会要項

- 目的 「全日本けん玉道選手権大会」に向けて、けん玉の技術の向上とともに精神力を鍛え、個々の課題を明確にする。
- 日時 2016年4月16日（土） 開場9時30分、受付10時～、開会10時30分
- 場所 青少年人権教育交流館（ハート交流館）  
大阪府貝塚市福田91
- 主催 日本けん玉協会関西総支部
- 参加資格と部門 関西地区（2府4県）在住であること。  
①中学生以上の部  
中学生以上で認定段位弐段以上の者。  
優勝者には「第38回全日本けん玉道選手権大会」の関西シード権が与えられる。
- 日本けん玉協会認定段位を持たないものについては、事前に実力検査を行い、弐段以上の実力を認められた場合、大会に参加できる。
- ②小学5・6年生の部  
将来「全日本けん玉道選手権大会」の出場を目指す小学5・6年生。
- 参加費 1人 1,000円
- 持ち物 日本けん玉協会公認けん玉、筆記用具、上履き、昼食、飲み物
- その他 けん玉検査で不合格になった場合に備え、予備のけん玉を準備しておくこと  
「けん玉道関西チャンピオンシップ」との重複参加は不可

【けん玉検査】 競技開始前に、審判員による使用けん玉の検査を行う。

- ・使用するけん玉は、日本けん玉協会公認けん玉（新富士、新さくら、TK16Master、夢元、大空）であること。
- ・使用するけん玉は、できるだけ「新品の品質」を保持しなければならない。
- ・けん玉識別のための記名などは、必要最小限の大きさとし、明らかに試技の目印となる場所にしてはならない。
- ・ワレ、カケ、キズ、ハガレ等、使用けん玉の競技に「影響するか、しないか」の判定に当っては、審判団の協議により決定する。従って、選手は、自分で用意したけん玉の使用が認められない場合を想定して、常に予備のけん玉を用意しておくことが要求される。

#### 《予選・得点制競技》

- ・大会選技①～⑫の12種目を2回ずつ行う
- ・各試技1回の成功につき、1点とする（合計24点満点）
- ・各選手の試技は、審判が「成功」及び「失敗」を判定した瞬間に完了する。
- ・各試技は審判の「はじめ」のコールを聞いてから15秒以内に開始し「時間です」のコール（「はじめ」から40秒）があるまでに技を完了しなければ失敗とする。
- ・「はじめ」のコールの前に試技を行なった場合、その試技は失敗とする
- ・「時間です」のコールと、審判の判定が同時であった場合、審判の判定を優先する。
- ・「時間です」のコールは、全員の試技が40秒以内に完了した場合は行わない。
- ・試技が別の選手の試技により妨害された場合は、やり直しを求めることが出来る（挙手により主審・副審・大会スタッフに合図し、勝手にやり直さないこと）
- ・同点の場合は、以下の方法に基づいて順位を決定する。
  - （1）12種目の1回目の合計得点が高い人が上位とする。
  - （2）1回目も同点の場合はサドンデスを行う。技の順番は審判がくじを引いて決定する。サドンデスは一順を限度とし、決着しない場合は「全日本タイム競技2015」を行う。
- ・予選得点順に、各部門上位8名（1位～8位）が、決勝トーナメントに進出する。
- ・敗者復活戦は行わない。

#### 《決勝・トーナメント戦》

- ・決勝トーナメントの組み合わせは、予選の順位により決定する。
- ・先攻後攻については、トーナメント表の左側の選手を先攻とする。
- ・選技は、各クラス規定の①～⑫の種目からくじ引きで決める。
- ・主審の「はじめ」のコール後、15秒以内に試技を開始し、40秒以内に試技を完了すること。
- ・試技及びタイム競技において、主審の「はじめ」のコールの前に試技を開始した場合は、その試技は無効として注意が与えられる。その選手が2度目の注意を受けた場合は、その時点でその試技は失敗とする。3度目以降も同様。回数は決勝トーナメント中、累積する。
- ・1回戦と準決勝、3位決定戦については、4本勝負（2本先取勝ち）
- ・決勝戦については、6本勝負（3本先取勝ち）
- ・各試合、規定の本数で同点となった場合は「全日本タイム競技2015」で勝負を決める。

#### 《表彰》

- ・各部門「優勝者」「準優勝者」「第3位」

#### 《連絡先》

この大会に関する質問、お問い合わせは下記まで。

日本けん玉協会 関西総支部 事務局

奥野 睦夫 (Tel) 090-9119-9608 (E-Mail) [alpacakendama@gmail.com](mailto:alpacakendama@gmail.com)

# けん玉道関西グランプリ大会選技

- ① 二回転飛行機
- ② つるし一回転飛行機～はねけん
- ③ 回転うぐいすの谷渡り
- ④ うずしお灯台～さか落とし
- ⑤ 一回転すくいけん
- ⑥ ふりけん～一回転けんフリップ地球まわし
- ⑦ 二回転灯台～一回転さか落とし
- ⑧ 宇宙遊泳一回転飛行機
- ⑨ 極意わたり
- ⑩ 円月殺法（空中もちかえ）一回転灯台
- ⑪ （変動種目1）前ふりすべり止め極意
- ⑫ （変動種目2）ジャンピング宇宙遊泳

## ★全日本タイム競技2015

- ①ろうそく返し、②前ふりうぐいす～回転けん、③ヨーロッパ一周～地球まわし
- ④円月殺法、⑤宇宙遊泳、⑥つるし一回転灯台～さか落とし

## ☆技の説明

### ・変動種目について

日本けん玉協会ホームページ （動画） [http://kendama.or.jp/category/news/news\\_information/](http://kendama.or.jp/category/news/news_information/)

## ⑪前ふりすべり止め極意

### 【持ち方】 極意技の持ち方

けん先を手のひら側にし、糸の出ている側の皿胴を下にして片手でけんの小皿と大皿を挟む様を持つ。皿胴より中皿側のけんに触れてはならない。

### 【技の動作】

一方の手でけんの小皿と大皿を持って、他方の手でつり下げた玉を持って手前に引き寄せ構える。玉を放して玉を前に振り出し、けんを手前に動かして玉を引き空中で玉を手前に1回転させ、玉の穴を利用して玉をすべり止めに乗せて静止させる。玉及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

### 【注意事項】

- ・皿胴より中皿側のけんを持ってはならない。けんを持つ手はけん先に触れても良い。

・手で玉を持って体を一旦静止させて構えている場合、玉を振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。

・手で玉を押さえずに一旦体を静止させて構えている場合、玉を前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。

・主審の「成功」の合図(発声、挙手)があるまでけん玉と体を静止させておくこと。・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

## ⑫ジャンピング宇宙遊泳 (ジャンピングは手首に限定する)

【持ち方】 片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わない。

持ち替え後の持ち方 玉の持ち方

### 【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。糸が張った状態のまま玉を振り上げてけんを放し、けん玉を空中前方に投げ上げる。糸の張った状態でけん玉と玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけん玉が手前に1回転してきた時に、玉の糸に近い部分を糸もろとも、上から手首で押し当てて手首を返して、糸が張った状態のまま、玉を中心にけん玉が1回転するようにけん玉を振り上げて、玉と糸から手首を離す。次いで、玉を中心にけん玉が1回転してきた時に、再び玉の糸に近い部分を糸もろとも、上から手首で押し当てて手首を返して、糸が張った状態のまま、玉を中心にけん玉が1回転するようにけん玉を振り上げて、玉と糸から手首を離す。いわゆる「ジャンピング」の動作は3回以上繰り返すこと。最後に、糸の張った状態で玉を中心にけん玉が手前に1回転してきたとき玉をつかみ、「飛行機」のようにけん玉を振り出した後、けん玉を手前に1/2回転させ、けん先を玉の穴に入れる。

### 【注意事項】

- ・けん先の玉の穴への入れ方は、すくいけんや一回転飛行機にならないこと。けん先は水平より下向きの状態で玉の穴に入れること。
- ・けんを放す前に、玉を前後にふる、リズムをとるために動作を反復することは可とし、この予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技は片手で行うこと（最初にけんを持った手で、玉や糸に手首を押し当てたり、玉をつかむこと）。
- ・技を開始した後に、けんを放す前に、振る動作をしている玉を再び手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・玉の糸に近い部分を糸もろとも、上から手首で押し当てて手首を返すとき、手の平や指の側面で押し当ててはならない。また、玉をつかんではいない。
- ・技は体の正面又は側面側で行うこと